

第2回徳島県特別支援学校の教育環境に関する検討会議の概要について

1 日 時 令和7年10月27日（月） 午後2時45分から午後4時45分まで

2 場 所 徳島県立国府支援学校（徳島市国府町矢野字松木348番地）

3 出席者

- （1）委員12名
- （2）オブザーバー5名
- （3）特別支援教育課長 ほか

4 議 事

- （1）検討事項に係る情報提供及び情報共有
- （2）学校見学
- （3）検討事項についてのグループ協議

5 各委員からの主な意見（グループ協議）

テーマ：「次世代の特別支援教育の担い手となる人材の育成と確保について」

〈多様化する障がいに対応できる専門性の担保・向上の取組〉

- 医師などの外部専門機関と積極的に連携する必要があるのではないか。
- 校内外の専門性の高い人材とつながる仕組みを作り、成果報告会を開催してはどうか。
- 外部講師の活用や事例検討を増やすことが望ましい。
- ICT（VR、AI シミュレーション、メタバースなど）を活用し、障がいの疑似体験や理解を深める研修を導入してはどうか（偏見の解消にもつなげる）。
- 嚥下機能、精神・二次障がい、医療的ケア、アレルギーなど、多様化するニーズに対応するための事前学習や研修の機会を設けてはどうか。
- 障がいの重度化・多様化に伴い、教員の専門性の範囲が広がっており、家族支援のスキルも必要だと思われる。

〈教員不足解消につながる人材確保策の検討〉

- 大学などで教職の魅力を積極的に語り、伝える機会を増やしてはどうか。
- 小・中・高校生向けのインターンシップやボランティアを推進し、早い段階で特別支援学校や子どもたちの実際を知ってもらうことが大切だと思う
（「現場を見る」「子どもと関わる」ことの重要性を強調）。
- 映像や写真、メディアなどを活用し、教職や特別支援教育の魅力ややりがいに関する情報発信をしてはどうか。
- シルバー人材の活用や、医療・福祉分野からのアプローチを検討してはどうか。
- 非正規・臨時採用の教員が安心して働けるバックアップ体制の構築が必要だと思う。
- 例えば、採用後３年間の免許状取得猶予期間を設けることで、特別支援学校教諭免許状を保有していないが意欲のある人材を、正規採用できないだろうか。
- 業務内容を精選し、物理的な負担を減らすべきである。
- ICT（Zoom、オンライン）を活用して業務の効率化を図るべきである。
- 教職に対する多忙感のイメージを払拭できるよう、教科外の支援業務についてアウトソーシング（外部委託）を検討してはどうか。